

カール・テオドル橋

愛され続けるハイデルベルクの象徴

塚本敏行

TUKAMOTO Toshiyuki
東京エンジニアリング株式会社 / 営業企画管理部 / 次長



1945年3月29日22時 その瞬間、爆発が起こった。そして、すべてが終わった。

窓ガラスがガタガタと振動し、小石が降りそそいだ。2つの橋脚が吹き飛び、3つのアーチが崩れ落ちた。美しく輝いていた橋は瓦礫と化した。破壊されたのは、ネッカー川左岸側(旧市街側)から数えて5番目と6番目の2つの橋脚と、同じく5番目から7番目の3つのアーチであった。ドイツが降伏する僅か1ヶ月前の出来事である。

2002年9月28日土曜日 偶然にもこの日は、年に一度、一日だけ(9月の最終の土曜日)の「ハイデルベルクの秋祭」の日である。天気も良いためか、橋も街も、どこもかし

こも人で溢れ返っている。

輝く茶色のとても美しい石橋。それがカール・テオドル橋の第一印象である。正式名称は「古い橋」という意味のアルテ・ブリュッケであるが、カール・テオドル橋の方が認知度が高い。

橋の左岸側(旧市街側)には、かつては街の防衛施設(城壁)の一部であった橋門がある。そして、見張りに使っていた白壁の2つのブリュッケン・トーア(橋塔)が橋門の左右にそびえ立つ。その昔、橋門の部屋は牢獄として使用されていたそうである。さぞかし眺めの良い牢獄であっただろう。

橋門西広場には、通行人に「それ、ご覧」と鏡を突出



写真1 - 最初に石畳が敷かれた通り「シュタイン・ガッセ」の秋祭り



写真3 - ブロンズ製のブリュッケン・アッフエ(橋の猿)像

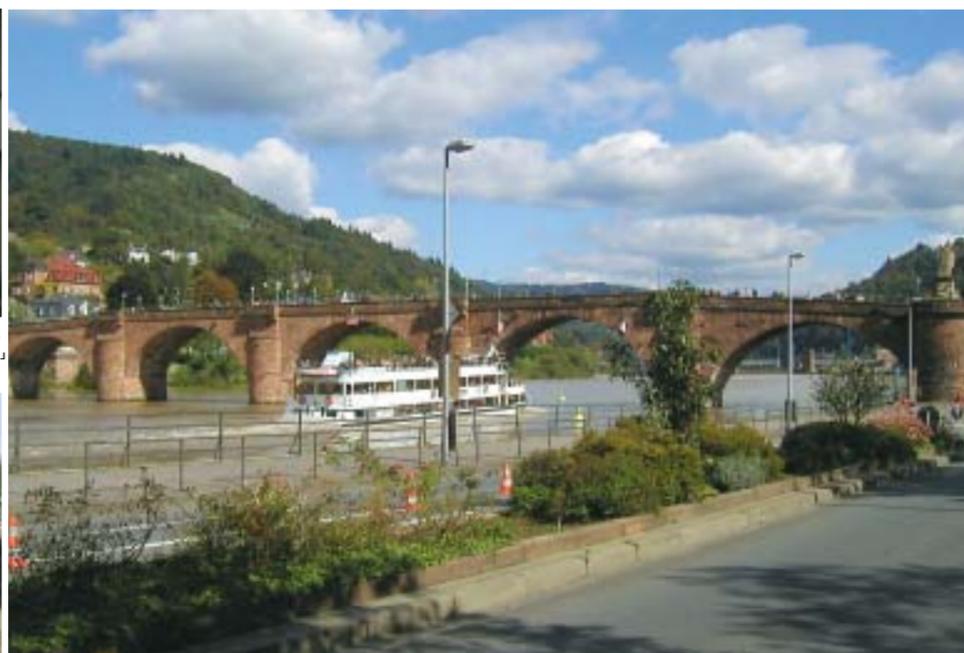


写真2 - カール・テオドル橋とネッカー川を往く遊覧船



写真4 - ブリュッケン・トーアとハイデルベルク城

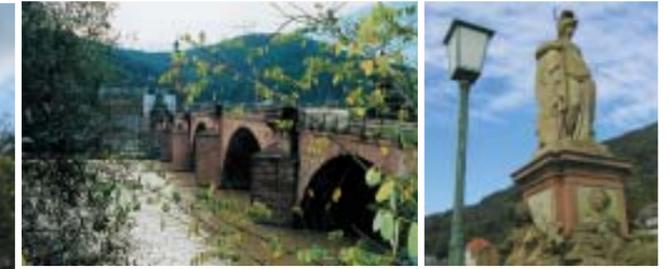


写真6 - カール・テオドル橋の上流側にある尖った水切り橋脚 写真7 - パラス・アテナ(アテナ)の像

す恰好の有名な「ブリュッケン・アッフエ(橋の猿)」が据えられている。この謂れは、諸説あるため割愛する。

下流側からブリュッケン・トーアを眺めると、その右奥に、かつてプファルツ国を治める選帝候の居城であったハイデルベルク城が望める。このハイデルベルク城から望むカール・テオドル橋は、ハイデルベルクの紹介に必ずといって良いほど掲載されるアングルである。

カール・テオドル橋は、橋名にもなっている選帝候の命によって1786～88年にかけて建造された。前身は屋根で覆われた木橋(橋脚は石)であったが、1784年2月27日のネッカー川の洪水によって流され、現在が9番目の橋である。

旧市街側から数えて2番目の橋脚には、建造主であるカール・テオドルの像が立っている。その橋脚側面には今までの洪水水位が表示されており、最高水位は橋面ほどの高さがある。橋脚の河積阻害率は約18%もあり、かなりの激流に耐えたことが伺える。

橋脚の上流側は、洪水により流された経験から、水圧を分散する尖った形状をしている。先人達の先見の明がここにある。後年、先人達が予想もできない方法で橋は破壊されることになるが...



写真5 - カール・テオドルの像とネッカー川洪水時の水位のマーク

石造りアーチである橋の断面は、一般部で全幅が約8mあり、高欄・歩道部・車道部に分かれている。橋脚部にはテラスがある。横断勾配もあり、歩車道境界部には排水枘も設置されている。現在でも2tまでの車は通行が可能である。

当日、橋面上流側半分があいにくと補修工事中であった。年に一日しかない「ハイデルベルクの秋祭」の日である。日本であれば、さしずめ、祭の前に工事が完了する工期設定で発注を行うだろうに...。このへんがドイツ的という訳なのだろうか。

旧市街側から数えて7番目の橋脚には、ハイデルベルクの守護神であり英知の女神でもある「パラス・アテナ」(ギリシャ神話のアテナ:ゼウスの娘にしてオリンポス神の1人。ゼウスの頭より生まれた知恵の神)の像が立っている。ドイツで一番古い大学(1386年設立)として知られるハイデルベルク大学に通じるものを感じる。

1947年7月26日11時 少女が市長に大きなはさみを手渡し、テープカットが行われた。第二次世界大戦末期、街のすぐ北側まで迫っていたアメリカ軍の侵入を遅らせるため、ドイツ軍が自ら破壊した歴史的な土木遺産、カール・テオドル橋は市民の寄付によって再建された。

それから半世紀 今でも雨が降ると特に、古い橋脚と新しい橋脚の色の違いがはっきりとわかるらしい。二度と破壊されることがないように祈りつつ、橋に別れを告げた。

(写真:6、倉田 雅人 他、著者)

参考資料

- 1)「Die alte Brücke in Heidelberg」Helmut Prüclner : Braus(Stadtbücherei Heidelberg)ハイデルベルク古橋 編者ヘルムート・ブリュックナー 出版社ブラウス(ハイデルベルク市図書館蔵)
- 2)「Heidelberg am Neckar : Ein Rundgang durch die Altstadt」ハイデルベルク旧市街散策の手引き
- 3)「Übersichtsplan : Instandsetzung der Karl-Theodor-Brücke」(Tiefbauamt in Stadt Heidelberg)カール・テオドル橋の工事計画概要図(ハイデルベルク市土木課)
- 4)「ハイデルベルク」ドイツ観光局発行